

## オムニバス・ジャパン 3D映像制作体制強化

東北新社グループのオムニバス・ジャパン（東京都港区 大西良二社長）は1987年の設立以来、テーマ・パークのライド映像や展示映像をはじめ3D映像制作に積極的に取り組んできましたが、3D映像市場の拡大を受け、制作体制をさらに強化しました。

オムニバス・ジャパンではその豊富な経験を活かし、あらゆるジャンルや表現に対応可能なフルデジタル3D映像制作ワークフローを構築。

制作フローとしては、3Dテクニカルプロデューサーが技術構築、表現の提案、コスト管理を一貫してコントロールします。

また、撮影部門では3Dステレオグラファーが様々なニーズに合わせてカメラ機材などを選定し、後処理での視差調整に至るまで「3D映像設計」を行うとともに、特殊3Dハイスピード撮影等、技術開発も積極的に取り組んでいます。

CGI部門では得意のVFX技術を駆使し、経験豊富な3DCGプロデューサーを中心にリアルな実写合成からフルCGまで、3D表現の幅を無限に広げる対応となっています。

さらに、圧倒的な技術力を誇るポストプロダクションで編集・合成を行います。

撮影から完成映像まで、最高の設備とノウハウを持つ人材によりフルデジタル3D映像としてのクオリティを保証する体制となりました。

今秋劇場公開予定のフル3D映画『牙狼<GARO>～RED REQUIEM～』では、あらゆる3D映像技術が全て盛り込まれています。

既にデジタルシネマに対応したパッケージ制作、3D上映施設も完備しており、今後はブルーレイでの納品に対応を予定、3D映像におけるオムニバス・ジャパンの総合技術力を、各方面に幅広く提供していきます。